

第3次地域福祉計画第6回策定協議会 議事概要

日 時：平成26年2月20日（木）13：30～15：00
場 所：市役所北庁舎6階 第2議会会議室

＜委員出席者＞ 17名

- 【会長】 神谷 和也（社会福祉法人安城市社会福祉協議会）
【委員】 松崎 敬城（安城市町内会長連絡協議会）
柴田 綾乃（安城市民生委員児童委員協議会）
野上 三香子（安城市ボランティア連絡協議会）
北川 弘巳（安城市老人クラブ連合会）
都築 光哉（安城市子ども会育成連絡協議会）
森 宗茂（一般社団法人安城市医師会）
毛受 順（安城市地区社会福祉協議会会長連絡会）
三浦 陽市（安城市小中学校長会）
森下 睦夫（安城市身体障害者福祉協会）
野村 綾子（NPO法人コミュニティサポーターほっぷ）
松岡 万里子（NPO法人ing）
山北 佑介（社会福祉法人ぶなの木福祉会）
加藤 藤子（医療法人紘寿会）
神谷 由美子（NPO法人おやこでのびっこ安城）
池端 伸二（公募委員）
木村 登志枝（公募委員）

【顧問】 長岩 嘉文（日本福祉大学中央福祉専門学校）

＜委員欠席者＞ なし

＜事務局出席者＞ 13名

- 福祉部部長（都築）
福祉部次長（岡田）
社会福祉課長（近藤）
社会福祉課課長補佐（大見）
社会福祉課（深津）
社会福祉協議会事務局長（清水）
社会福祉協議会総務課長（杉浦）
社会福祉協議会地域福祉課長（原田）
社会福祉協議会地域福祉課長補佐（江坂）
社会福祉協議会（吉村、野々山、保良）

＜その他関係者出席者＞ 3名

障害福祉課長
健康推進課長
介護保険係長

＜次第＞

- 1 あいさつ
- 2 議題
(1) パブリックコメントの応募状況と意見の取り扱いについて
(2) 計画書最終案について
(3) 答申文について
- 3 答申
- 4 講評
- 5 今後の予定について

＜配布資料＞

- ・ 次第、第3次安城市地域福祉計画策定協議会委員名簿
- ・ パブリックコメントによる意見募集結果と市の考え方について（案）
- ・ パブリックコメント提出後の主な変更点（パブリックコメント以外）
- ・ 安城市地域福祉計画の策定について（答申）（案）
- ・ 第3次安城市地域福祉計画 平成26—30年度（案）

＜議事概要＞

1. あいさつ

【神谷会長】

- ・ 今回第6回目ということで過去5回の中で皆様方のお力添えをいただき、概ね案を作ることができ、パブリックコメントということで、一般市民に公表させていただきました。
- ・ この計画に対して市民の関心が高いと聞いております。我々も改めて気を引き締めなければならないと思います。
- ・ 本日は、このパブリックコメントに対する市の考え方等を報告していただきまして、皆様のご判断をいただき、最終案として市長にこの内容について答申していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

2. 議題

(1) パブリックコメントの応募状況と意見の取り扱いについて

《説明》パブリックコメントによる意見募集結果と市の考え方について（案）について
《協議》

【池端委員】

- ・ 非常によく勉強されていると思いますが、2ページの2番にあります「単位福祉圏域」について、これは用語解説に入れてもよいのではないかと思います。

【事務局】

- ・ 圏域につきましては、第1次福祉圏域、単位福祉圏域といった表現で福祉計画のほう

を作成しております。ただいま言われました単位福祉圏域は、一般的解釈で公になっているものではなく、組織化されていない前段階の隣近所のようなものとして、安城市独自の概念的な表現となっています。このことから、用語解説に記載しますと一般的解説として取られてしまう懸念がありますことから、今回につきましては、策定の中でこの解釈に基づいて、この言葉を使っているということをご理解をいただけたらと思います。

【池端委員】

- ・本編 74 ページの基本施策に「福祉のこころの醸成」とありますが、理解しがたいので、「熟成」などのやさしい言葉にしたほうが認知しやすいのではないのでしょうか。また、「醸」という漢字にふりがなを付けたほうがよいのではないのでしょうか。

【事務局】

- ・福祉のこころを「かもし出す」といったことで、特に間違っていないと思います。また、この部分だけ、ひらがなを振るというのも、ちょっと難しいと思います。

【池端委員】

- ・5 ページの 14 番で、地域における高齢者スポーツの推進とありますが、私も久しぶりに安城陸上選手権に出場してみました。しかし、高齢者が出場できる雰囲気ではなかったです。もっと高齢者が出られるように年齢別にしてはどうかと思います。

【事務局】

- ・ただ今のご意見につきましては、スポーツ課のほうに事業運営について改善が必要ということで、伝えさせていただきます。

【神谷会長】

- ・パブリックコメントによるご意見と市の考え方について、また、計画書への反映についてご意見がないようですので、今回、市のほうから提示されました計画書への反映の仕方についてご異議のない方は挙手を願います。（※全員挙手）
- ・ありがとうございます。今回、提案されました市の考え方はこの案の通りとさせていただきます。
- ・池端委員、この件以外で何かありますでしょうか。

【池端委員】

- ・例えば、18 ページのように日付を打ってあるところで、カッコの中の数字が小さすぎると思います。
- ・19 ページの表について、表の下に空白があるので、もっと行間を広くして表を見やすくしてほしいです。
- ・29 ページ（4）成果の部分で②に「介護サービス情報公開システム」とありますが、カッコの前に空白があり、次の行頭の「閲」が飛び出ているので、カッコを前に出したほうがよいのではないのでしょうか。

【事務局】

- ・ただ今のお話しの中で、文字のポイント数をもう少し大きくしてはとのことでしたが、表の下の文字ということですので、例えば、17 ページの表の下部などのように4行使っているところもごございます。こういった複数行の部分でも支障がないかを考慮いたしまして、ポイント数につきましては、勘考したいと思います。
- ・ページ内の空白につきましては、文字ばかりでは見栄えがしませんので、挿絵も活用

させていただきたいと考えます。レイアウト等は製本の段階で検討させていただきたいと思います。

- ・29 ページの箇条書きの表現の仕方につきましては、行政の文書はこのような表現となりますが、市における他の行政計画も見ながら製本の段階で検討させていただきます。

(2) 計画書最終案について

《説明》パブリックコメント提出後の主な変更点（パブリックコメント以外）について
《協議》

【事務局】

- ・ただ今の事務局の説明の中で、4章 112 ページのところの障害者を 26,000 人に変更とありますが、本編 112 ページは、52,000 人となっており、数値のズレがございます。52,000 人が正しい数値ですので訂正をお願いいたします。

【池端委員】

- ・7 ページ計画の策定体制の図にある矢印について、下から上に向かって進んでいますが、普通読むときは上から下に向かって読みます。上から下に向かって矢印を表記すべきと思います。
- ・16 ページ図 2-2 はもう少し横に広げたほうがよいと思います。
- ・27 ページ(2) 基本方針にある成果の③番に「安心キットを配布しました」とありますが、今後もこのキットは配布されるのかをカッコ書きしたほうがよいと思います。

【事務局】

- ・7 ページの計画策定体制の図につきましては、策定協議会が頭にありまして、以下、下部組織とご意見をいただく関係団体の動きといった表現になっております。矢印につきましては、意見がどのように集約され、どのような流れで策定されたかを表現する矢印となっておりますので、ご理解をいただければと思います。
- ・16 ページにつきましては、製本の段階で一番見やすい形を検討させていただきたいと思います。横に広げて文字が大きくなればそれも可能かと思います。
- ・27 ページの「安心キット」でございますが、平成 24 年度に配布させていただきまして、随時、災害時要援護者に登録された新規の方にお配りしております。成果ということですので、24 年度配布しましたということで表記させていただいております。

【松岡委員】

- ・12 ページの「障害のある人の支援イメージ図」について、障害者の虐待についてどこが担うのかを表記していただけますでしょうか。13 ページの「子育て家庭の支援イメージ図」の中には、「虐待等防止地域協議会」が表示されています。

【障害福祉課長】

- ・子育てのほうは、「虐待等防止地域協議会」の記載がございますが、これは、単独の組織としてあるものですから記載してございます。高齢者ですと地域包括支援センターが窓口、障害者ですと市のほうが窓口となっておりますが、窓口として兼ねているということで、この部分への直接的な表記はしてございません。分かりにくいということであれば、この部分に市の窓口として虐待防止センターがありますといった表記は可能です。

【神谷会長】

- ・事務局としては、全体のバランスを見て、そういった表記を入れたほうが分かりやすいか、他との影響があるのかを検討いただきたいと思います。

【障害福祉課長】

- ・検討させていただきます。

【池端委員】

- ・この計画書は使いやすくなければいけないと思いますが、第2次のときは、1ページの裏側に協議会の電話番号や住所が記載されていました。問い合わせるのに別の冊子を持ってきて、調べるのは使い勝手に問題があると思います。空白部分を利用して、関係課などの電話番号などを表記すればよいと思います。
- ・いくら素晴らしい計画でも手にとって見てもらわなければ何の意味もありません。中心市街地の活性化のため「まちドル」というのがありますが、この計画書を若者に見てもらうため、この「まちドル」を利用するなど、今後は見てもらうための努力が必要と考えます。

【神谷会長】

- ・装丁の仕方と幅広い層に見てもらうということは別の問題ですが、より多くの人に読んでいただく方策というものは事務局のほうで充分検討していただきたいと思います。

(3) 答申文について

《説明》安城市地域福祉計画の策定について（答申）（案）について

《協議》

【神谷会長】

- ・この答申案について、ご意見、ご提案などはございませんか。
- ・意義なしの声がありますので、この答申案につきましては、原案通りでご異議のない方は挙手願います。（※全員挙手）
- ・ありがとうございます。全員挙手ですので、答申案はこれに決定しました。
- ・以上で本日の議題は終わりました。

【事務局】

- ・慎重にご審議いただきありがとうございます。今後は、製本の段階で誤字、脱字等の修正は事務局のほうで責任を持ってさせていただきます。
- ・答申に移らせていただきます。

(※5分間休憩)

3. 答申

神谷会長が答申文を読み上げ、神谷市長に対し答申書を手交。

4. 講評

【長岩先生】

- ・本日、資料をいただいて驚いたのは、お1人で10人分くらいのパブリックコメントを下さったということです。しかし、パブリックコメントが1人だけというのは残念

な面もあります。

- さらに驚いたのは、この方は、事務局も我々も充分点検できなかったような緻密な部分までご指摘いただいて、ありがたい限りであります。
- No 2 でご指摘いただいた単位福祉圏域についてですが、1 次から 3 次まで単位福祉圏域がありますが、隣近所や町内会の班、組まで 1 次とするには無理があるように思います。やはり、隣近所や組まで 1 次とするには、行政的に表現しにくいと思いました。
- No 9 でご指摘いただいた言語についてですが、市の考え方のところで英語を含めて 4 言語としたほうが分かりやすいという印象を受けました。
- No17 について、現在、国が生活困窮者の自立支援制度をやろうとしていて、これも地域福祉計画に入れろとってきています。地域福祉計画で生活困窮者までやることは、大変なことです。今回の計画には、表現の変更も含めて入れていただいているので、網羅的にぬかりなくおまとめいただいたと思っております。
- 計画をどのように策定していくかといった、策定手法が問われますが、7 ページを見ると住民関係団体レベルでの会議を 166 ページにありますように 8 地区社協で過去 3 回の会合を開いていただいていますし、町内福祉委員会での会議も 72 町内で 200 回開催し、これに関わった方が 2,387 人もいらっしゃるということですので、地域レベルの協議を踏まえて計画が作られたということは大事なことだと思います。このことは、計画づくりとしての安城市のスタイル、伝統を創ることにもつながると思います。
- 今回、新規事業がありますが、例えば、61 ページ (2) で「住民組織と福祉関係団体等との連携と協議の推進」とあり、福祉関係団体と連携すると謳っており、同じページの①では、福祉関係団体調査、②では、福祉事業者、関係団体等の交流会もやっていくのだということも新たに出ています。安城市では、地域組織をとりまとめていくということは、かねてからできています。福祉事業者や関係団体をどのように地域福祉に取り込んでいくかということが今回の課題でもあり、今後の課題でもありますが、今回、新規事業で一定のフォローをしようといった形になっていると思います。
- 81 ページ (3) の⑤、⑥が新規事業となっていますが、ボランティア活動等助成事業の中に、行政課題の解決に結実するような協働テーマ提示型事業を創設するとあり、担当課が福祉部局ではありませんが、広い意味で地域の課題を設定し、その解決に向けて動いていくというイメージだと思いますので、ボランティアや市民活動をどのようにサポートしていくのかというところは、まさに、地域福祉と連動するところだろうと思いました。
- 85 ページ④にも新規事業が上がっています。目標値が 1 回だけで回数としては少ないですが、当事者団体にホローを入れていくということも大事なことで思っています。網羅的にそつなくお作りになっていると思います。
- 町内福祉委員会がこれだけ動いている市町村はないと思いますが、今後、行政と社協以外の公的福祉団体がどのように地域福祉に貢献していくかが大事なところで、社会福祉法人の地域貢献をどうやって促していくかが大事になってきます。今回の計画期間では、そういった部分がテーマになってくると思います。具体的事例では、大阪寝屋川市の社協が市内の入所施設と協定を結んで、一人暮らしの高齢者宅の鍵を預かるという取り組みをしています。これは、一人暮らしの高齢者に何かあったとき鍵がなければ入れないので、24 時間営業している福祉施設と協定を結んで預かってもらうよ

うにしています。社会福祉法人の地域への関わりについては、今後、しっかり考えていく必要があると思います。

- ・安城市内にもさまざまな専門家がいますが、専門家ご自身の守備範囲を少し広げていただいで地域に目を向けてもらえれば、地域の力に専門職の力を加えることになるので良いことだと思います。具体的事例ですが、一人暮らしのお婆さんが、生活が成り立たなくなったことから、地域包括支援センターに相談を持ちかけたところ、お婆さんには知的障がいのある息子さんがいて、以前、専門機関がその息子さんを施設に入所させており、お婆さんも知的障がいがあることが分かりました。このため、お婆さんは一人暮らしをしていたわけですが、息子さんを入所させた専門機関は、知的障がいのあるお婆さんが一人暮らしになるという認識がありませんでした。この事例のように、これからは専門機関も地域で暮らしていく人達がどうなっていくのかという事を充分お考えいただかないと連携した形の地域福祉は実現しないと思います。
- ・11、12、13 ページのイメージ図をどのようにイメージ通りに動かしていくかが大事になってきます。この中には、行政、社協、市内の核となる専門機関も入っているので、これを具体的に動かしていくということが、実効性のある地域福祉計画を運営していく課題であると思います。この計画を良い形で運用されるとよいと思います。ありがとうございました。

【事務局】

- ・長岩先生には、長い策定期間中、ご指導、ご助言を賜りましてありがとうございました。
- ・最後になりますが、神谷市長から委員の皆様にお礼の言葉がございます。

《市長あいさつ》

【神谷市長】

- ・策定委員の皆様には、昨年2月の第1回策定協議会から1年間、述べ6回に渡りましてご審議をいただきありがとうございました。この場をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。また、長岩先生には、福祉のご専門のお立場からご指導を賜り本当にご苦労様でした。
- ・日本経済の流れは、回復傾向に向かっているとされており、引き続き景気拡大が続くとありがたいと願っております。本市の来年度予算案につきましても、そのテーマを子どもの未来とまちの元気を育むといたしまして、消費税率引き上げにともないます景気落ち込みを下支えし、地域経済活性化に繋げる積極的予算といたしました。その結果、安城市の当初予算といたしましては、過去最大規模の618億円となりまして、これによりまして青少年の学びの環境整備や子育て支援さらに地域経済活性化に取り組んでまいりたいと思っております。
- ・今後の市民生活上の課題といたしましては、この10年で高齢化が急速に進展するとともに、核家族化や都市化の進展にともなう高齢者の孤立死や子育て家庭の孤立など身近な福祉課題が挙げられるかと思われまます。本市では、孤立死を出さないまちづくりを目指しまして、地域見守り活動推進事業を現在30町内福祉委員会において取り組んでいただいでおり、市内全域での展開を目指してまいります。こうした活動を通じまして、地域での繋がりの強化やお互いの助け合いを進めていく地域福祉活動が、安

心・安全なまちづくりにとって、今まで以上に重要になってくるものと思っております。

- ・本計画の策定にあたりましては、中学校区単位で地域会議を開催していただきまして地区社協の推進計画や町内福祉活動計画を策定していただいております。また、関係団体や福祉事業者と町内福祉委員会や民生委員会など、地域福祉活動を実践する皆さんとの交流の場やネットワークづくりを目的としました地域福祉マッチング交流会を開催し、団体間の連携の事例も生まれたとの成果をうかがっており、今年度も継続するとお聞きいたしております。こうした各地域や団体の皆様との連携が地域力の向上に繋がっていくものと思っております。
- ・安城市の財政は、現段階では健全性を保っており、高齢化率も 18 パーセント少々と、全国的に見ればまだ低い状況でございます。今のうちから将来に向けたさまざまな高齢化社会対応を図っていきたいと考えております。皆様方のご協力をお願い申し上げます。
- ・安城市としましては、お取りまとめをいただきました第 3 次安城市地域福祉計画をもとにいたしまして、基本理念の「大きく広がれ福祉の輪 みんなで支える地域の輪」を目指しまして、社会福祉協議会はじめ、地域住民の皆様やいろいろな団体の方々と良き関係を保ちまして、その実現に向けてまいります。また、それぞれの取り組みを密に連携させていくことが地域の住みやすいまちづくりに繋がるものと期待をいたしております。
- ・お集まりの委員の皆様におかれましては、それぞれの分野でご活躍をいただきますとともに、引き続き本市の福祉行政にご協力を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。私からのごあいさつとさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

5. 今後の予定について

《説明》今後の予定について

【事務局】

- ・長い間、協議をいただきましてありがとうございました。

以上